

科目名称:	教育実習指導	
担当者名:	石野 友子、村上 知子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
「幼稚園教諭2種免許」を取得するため「教育実習」を実施するが、「教育実習指導」は「教育実習」の事前・事後指導にあたる授業である。学習した理論や技術を、教育実習を通して具体的・総合的に確認することを目的とする。「子ども理解」を深め、幼稚園教諭の職務内容を把握し、実習により保育者にとって大切なことは何かを学び、その振り返りをする。それを『事例研究』にまとめてプレゼンテーションし、自己の学びを明確にすることを目的とする。		
授業の達成目標・到達目標		
教育実習を通して「保育者の役割」や「子どもの姿」を学び、理論や技術について再度確認をし、この実習体験を現場に生かしていけるように、実習の振り返りを行う。そこで、記録をまとめていくための手順を学び、現場に出てからの力となるようにする。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)			50	50	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》（村上）8ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》（村上）20年・（石野）22年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
実習準備	自ら課題に積極的に取り組み、現場で生かすことができる。	課題に積極的に取り組み、現場で生かすことができる。	課題に積極的に取り組むことができる。	課題に取り組めていない。
提出課題	自ら課題に取り組み、グループで協力し意見をまとめ、提出期限を守ることができる。	自ら課題に取り組み、協力し提出期限を守ることができる。	自ら課題に取り組み、提出期限を守ることができる。	自ら課題に取り組めていない。
授業の積極的関与	グループ内での役割を把握し、積極的に課題に取り組み協働的参加ができる。	グループ内での役割を把握し、協働的に取り組もうとしている。	グループ内での役割を把握し、積極的に課題に取り組む。	協力し、課題に取り組めていない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「幼稚園教育実習」実施までの流れと目的を理解する。	シラバスを精読し、本講義の概要を確認しておく。	20分
第2回 幼稚園について理解し、実習園を考える。	各自、地域の幼稚園を調べておく。	20分
第3回 オリエンテーションについて学び、身上書の下書きをする。	実習園について調査し、身上書を、丁寧に書く練習をしておく。	30分
第4回 身上書の清書をする。	身上書の内容をしっかりと理解しておく。	30分
第5回 指導案の書き方を学ぶ。	保育指導案の書き方の本に目を通し、ねらいなどを考えておく。	30分
第6回 指導案を丁寧に書いてみる。	子どもたちと一緒に活動したいことを考え、指導案を書いておく。	30分
第7回 実習報告会に参加する。	実習の手引きを精読しておく。	30分
第8回 実習記録の書き方について学ぶ。	実習記録についてどのようなことに注意して書けばいいかを考えておく。	30分
第9回 教材について理解する。	実習に実習指導する際に、何があるとよいかを考えておく。	30分
第10回 実習の流れを把握する。	実習に際して、提出物や流れを確認できるよう、準備しておく。	30分
第11回 実習に向けて何が必要か考える。	教材を考えて準備しておく。	30分
第12回 お礼状の書き方を理解する。	正しい手紙の書き方を調べておく。	30分
第13回 保育実習を振り返り、教育実習の課題を考える。	実習の反省や課題を考えておく。	30分
第14回 実習内容について考える。	指導案を書き、教材の準備しておく。	90分
第15回 2年生の実習に向けての心構えについてプレゼンテーションする。	2年生の実習に向けて、他の学生に伝わるプレゼンテーションを練習しておく。	40分
第16回 「教育実習」の振り返りをする。	実習記録をチェックし、自分の実習の課題を考える。	30分
第17回 「教育実習」についてグループで話し合いをする。	実習記録を見て、どんな気づきがあったかをまとめておく。	30分
第18回 「教育実習」グループで話し合ったことをプレゼンテーションする。	実習記録を見て、自分の実習での学びをまとめておく。	30分
第19回 「実習報告会」に向けて話し合う。	1年生に向けてどのようなことを伝えたらよいかを考ておく。	30分
第20回 「実習報告会」に向けて話し合う。「事例研究」に向けて話し合う。(グループワーク)	1年生に何を伝えたいかを考えておく。	40分

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第21回 「実習報告会」についてクラス内でプレゼンテーションする。	プレゼンテーションの練習をしておく。	40分
第22回 「実習報告会」に参加する。（チュートリアル）	1年生に向けて分かり易いようにクラス全体で考え、練習しておく。	40分
第23回 「事例研究」に向けてグループ別討論を行う。（グループワーク）	自分の実習を踏まえて1年生に伝えたいことを考えまとめておく。	30分
第24回 「事例研究発表」に向けてグループ別討論を行う。（グループワーク）	実習記録を基に事例をまとめておく。	30分
第25回 「事例研究」を作成する。	できたところまでデータとして打ち込んでおく。	30分
第26回 「事例研究」を作成する。	できたところまでデータとして打ち込んでおく。	30分
第27回 「事例研究」を完成させる。	データを確認し、グループで検討しておく。	30分
第28回 「事例研究発表」冊子作成とまとめを行う。	冊子の中のどの部分を発表するかを考えておく。	30分
第29回 冊子を基にグループでプレゼンテーションする。	分かり易くプレゼンテーションできるように練習しておく。	30分
第30回 冊子を基にグループでプレゼンテーションする。	分かり易くプレゼンテーションできるように練習しておく。	30分
<p>事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。</p> <p>また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。</p> <p>実習記録50% 事例研究等の話し合いや内容及びプレゼンテーション50% で評価配分する。</p>		
課題に対するフィードバック		
実習記録・指導案、事例研究を評価、添削、確認し、返却する。		
教科書・参考書		
<p>教科書：「学びつづける保育者をめざす 実習の本」 久富陽子 萌文書林 毎回使用します。</p> <p>参考書：「実習の手引き」 金城大学短期大学部 「これで安心！保育指導案の書き方」 開 仁志編著 北大路書房</p>		
備考		